

令和3年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校 No1

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 確かな学力と進路実現の保障 探究型学習の推進など、授業改善により学びの質の向上を目指し、全ての教育活動を通して生徒の主体性等を育み、生徒の進路実現へとつなげる。	① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって協働して学ぶ態度の育成を図る。	教務課	昨年度の調査結果によると、肯定的評価は、94.6%と高かった。本校では、ペアワークやグループワークを多く取り入れ、生徒が主体的に活動できる場面を増やしているが、今後の授業改善で、授業内容が生徒の学力向上に実際に結びついているかを確認できる評価方法の検討や、生徒が意欲的に協力して活動に参加できる仕掛けをする必要がある。	【満足度指標】 授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっている。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	教務課	習熟度別授業を国語、数学、英語で実施しているが、習熟度別授業が学力向上に効果的であると回答する生徒の割合は国語86.5%、数学90.7%、英語92.7%である。それぞれの学力層に合った効果的な指導について工夫していく必要がある。	【満足度指標】 習熟度別授業が学力向上に効果的な内容になっている。	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	③ 高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等とおして進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	進路指導課 3年	令和2年度入試国公立大学合格者は ア: 難関10大学・国公立医学部合格者3名(東北大3) イ: 金沢大学合格者12名 ウ: 国公立大学合格者合計92名である。	【成果指標】 多くの生徒が高い進路目標を達成している。	ア: 難関10大学・国公立医学科合格者5名以上 イ: 金沢大学合格者20名以上 ウ: 国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
	④ 学習習慣の確立 1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。	進路指導課 1年 2年	年間の平日家庭学習時間の平均3時間以上達成者の割合が1年生41%、2年生41%であった。調査前とそうではない時期の差がまだ大きく、個々の学習時間にも差があるので、全体が達成できる目標を明確に設定し、指導していく必要がある。	【成果指標】 1・2年生の年間平日家庭学習時間3時間以上の達成者割合で判断する。	年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 1・2年生ともに 65%以上 B 1・2年生ともに 50%以上 C 1・2年生ともに 35%以上 D 1・2年生ともに 20%以上	C、Dの場合、改善策を検討する。	個人面談、基準達成に必要な授業の予習指導、家庭学習時間調査を行う。
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの励行から始まり、全ての教育活動を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	生徒指導課	本校では毎朝、校長・教頭のほか3～4名の教員が輪番で通学路や玄関で登校指導を行っている。生徒もクラスから一人ずつ参加し、その重要性を自覚する良い機会となっている。生徒会執行部や部活動単位でも挨拶運動を行う場合もあるが、まだまだ徹底しているとは言えない。昨年度「必ず挨拶する」「だいたい挨拶をする」と回答した生徒は96.3%であった。「挨拶する生徒が100%」を目指して、今年度も継続して取り組み、指導していく。	【努力指標】 全生徒が自ら進んで挨拶を行っている。	第2回学校評価(生徒)で、「挨拶をしていますか」の間に、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合(①+②)が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施する。	生徒指導課	いじめ問題やネットトラブルの発生を未然に防止するために、教員・生徒を対象とする講習会等を実施している。いじめ問題等が発生した場合は、学校と家庭が連携を深めて、教員が一致協力して問題解決に当たる体制を構築するように努めている。	【成果指標】 教員が、研修等を通していじめ問題やネットトラブル等の防止・対応・解決策について理解を深め、生徒への適切かつ有効な指導に結びつけている。	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	生徒会指導課	令和2年度は北信越(北陸)大会以上に9部が出場を果たした。内、全国大会(選抜)には2部が出場を果たした。	【成果指標】 北信越・北陸大会以上の大会への出場を果たす。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	Dの場合、改善策を検討する。	2月に最終調査を実施する。

令和3年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校 No2

重点目標		具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
		④ 基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健相談課	学校評価で「毎日きちんと朝、昼、晩の食事を摂っている。」と答えた生徒は昨年は97%であった。また、「バランスの良い食事を心がけている」と答えた生徒は約85%と前年からやや改善した。	【成果指標】 生徒がバランスの良い食事を心がけている。	保健・相談課のアンケートでバランスの良い食事を心がけていると答えた生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	7月、12月の学校評価を利用して調査で判断する。
		⑤ 部の顧問に協力を得て部活動単位で校内外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	生徒会指導課	25部中9部が複数回ボランティア活動を実施した。(36%の実施率)	【成果指標】 生徒が部活動単位で複数回ボランティア活動を実施する。	ボランティア活動を複数回実施した部が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	Dの場合、各部顧問に積極的な活動参加を求める。	1月末に生徒会指導課で調査する。
		⑥ 『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しみを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	図書情報課	昨年度1年間の生徒一人当たりの貸出数は、一昨年度同様、県内平均を上回る3.9冊であった。	【成果指標】 生徒一人当たりの貸出数を調べる。	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上 B 3冊 C 2冊 D 2冊未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	月毎の図書貸出数の統計で判断する。
		⑦ 体育の授業における体づくり運動や年間を通しての補強運動、チーム練習を主体的に取り組ませ、体力の向上を図る。	保健体育科	令和元年度スポーツテストの結果から持久力、50m走において、おおよそ全学年が全国平均を下回り、走運動における能力低下が見られる。 ※令和2年度は新型コロナの影響でスポーツテスト実施なし	【成果指標】 スポーツテストにおける持久走の結果で、全国平均を上回る。	スポーツテストにおける持久走の結果で、全学年男女別の6部門中、全国平均を上回った部門が A 4部門以上 B 2部門 C 1部門 D 0部門	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月のスポーツテストの結果を集計する。
3	地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティア活動を通して地域とつながり、医療や教育の分野を中心に地域に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者に本校を理解してもらえるように努める。	総務課	体験入学等の情報をポスターやホームページで提示している。体験入学参加者は、昨年度は中止、一昨年度は348名であった。満足度は、とても良かったが65%であった。	【成果指標】 体験入学参加者の満足度を高める。	体験入学参加者によるアンケート調査で満足度が80%を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	Dの場合、改善策を検討する。	体験入学参加者(7月)によるアンケート結果で判断する。
		② 出前授業、学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。	教務課	地区説明会や各中学校主催の説明会へ参加をし、広報活動に力を注いだ。しかし、コロナ禍のため中学校での出前授業や高校だより作成はできなかったこともあり、志願倍率は0.9倍であった。羽咋都市を含めた能登地区の少子化は深刻であり、入学志願者を確保するために効果的な広報活動が必要である。	【成果指標】 一般志願倍率を高める。	一般志願倍率が A 1.1倍以上 B 1.05倍 C 1.0倍 D 1.0倍未満	Dの場合、広報活動の方法を見直す。	年度末に評価する。
		③ 保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	図書情報課	昨年度の保護者アンケートにおいて本校のホームページが「役立つ」「やや役立つ」と答えた保護者は一昨年度の63.8%から87.6%へと急激に増加した。ホームページを大幅に新調したことが効果をあげている。	【努力指標】 教職員全員が、本校の教育活動の理解に役立つ、見やすいホームページ作りに努める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合(①+②の合計)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	保護者アンケートで判断する。
4	教職員の多忙化改善 働き方に対する意識改革と時間外勤務の縮減を図り、より良い教育活動の実践を目指す。	① 平日は、19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動に関して年間計画、月別計画、実施表を作成して、適切な休養日を確保できるようにする。業務改善にも工夫をする。	教頭	令和2年度は、4・5月に臨時休業となったことや、部活動の対外的な活動が大幅に縮小されたことにより、勤務時間調査において1人当たりの月平均の時間外勤務時間は平均31.2時間であった。これは、あくまでも特別な状況下のことであり、スタンダードにはなりにくい。	【成果指標】 教職員全員が多忙化改善に向けた取組を実施し、時間外勤務時間を減らす。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 40時間以下 B 40～45時間 C 45～50時間 D 50時間超	Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	毎月の時間外勤務時間調査により判断する。